



年間テーマ ～ 平和を目指してともに歩もう ～



地上でもっとも小さいといわれている種子、それがシナピス(からし種)です。イエスは神の愛がすべての人におよび、互いに尊重し合い、愛し合うように願って平和の種をまき、やがて鳥が巣をつくるほどの大きな木になると約束しました。

カトリック大阪大司教区
社会活動センター・シナピス

TEL/06-6942-1784 FAX/06-6920-2203
Email/sinapis@osaka.catholic.jp
ホームページ/<https://sinapis.osaka.catholic.jp/>

今月のテーマ

身近なところから

平和の種をまこう

タイトル: 「原爆ドーム」
作: 堀田 ^{ほりた} 楚乃 ^{その}さん (当時12歳)

第1回シナピス主催絵画コンテスト
ピース賞受賞作品

カトリック園田教会 やまぐち たけし 山口 武史

小学 3～4 年のとき、教会学校で平和について神父さんが話をしてくれました。世界と家族についてでした。

「世界では、戦いが絶えないが、みんなは兄弟姉妹で、おやつやテレビのチャンネルを取り合って、けんかをしていないか？ 戦争も兄弟げんかと一緒なのだよ。戦争は、領土の取り合いで、兄弟げんかは、おやつやチャンネルの取り合い、だから兄弟姉妹や家族が平和ならば、世界も平和になります」という話でした。

「なるほど！」と思ったのですが、テレビ番組でヒトラーのことが伝えられていました。小学生の私はよく分かりませんが、信じられないほど多くの人を殺した、恐い、恐いおじさんくらいの知識がありました。

しかし、このテレビの映像ではヒトラーは家族を大切にし、家庭は平和そのものでした。どうも兄弟姉妹や親子の仲が良くても、世界が平和になるとは限らないなあと思議に思い、父に質問しました。父は「ヒトラーは、ドイツという家族だけを大切に、他の国民はどうでもよかったのかもしれない」と答えてくれ、そうかもと思いました。

ルカ福音書 10 章 25 節～37 節の有名な「よきサマリア人」のたとえで、隣人とは、あなたの目の前にいる苦しんでいる、困っていたりする人のことで、神様があなたを救ってくださったように、あなたも苦しむ人、困っている人に手を差し伸べてあげなさいと勧めています。

しかし、社会や世界を知ると、手を差し伸べるべき人が多すぎて、手に負えないなあ諦めがちになるときもあります。

名古屋教区の二代前の故・相馬信夫司教様が、差別のことでお話しされたのですが、「いくら社会問題に関心がなく、心の冷たい人でも、自分の友だちが不当な扱いを受けていたら、怒るでしょ？差別を受けている一人でもいいから友だちを作るのが、一番の早道では？」でした。

身近な人に平和の種を蒔くというヒントになっているような気がします。

ニュースレター 目次

- 1 巻頭言
- 2 沖縄からの訴えと祈り
- 3 第 37 回カトリック那覇教区平和巡礼
- 4 戦争とトラウマについて
- 5 障がい者委員会より
- 8 ちょっと聞いて
- 9 時報 8 月号より
- 12 難民支援に触れて
- 13 祈りの集い報告
- 14 ガリラヤの風
- 15 今月のチラシ
- 16 みんなのけいじばん
- 17 シナピス事務局より
- 18 シナピスの風
- 19 あとがき

チラシ・ご案内

- ・シナピスの風
- ・8 月の祈り
- ・忘れないあきらめないカレンダー
- ・日本カトリック平和旬間司教協議会会長談話
- ・we are Caritas No.27 キャンペーン特別号
- ・難民・移民とともに生きる教会共同声明
- ・日本基督教団京都教区「教会と社会」第1回セミナー
- ・大阪府立生野聴覚支援学校児童事故の障害者差別のない公正な判決を求める要請署名

年間テーマ

～平和を目指してともに歩もう～

身近なことから世界に至るまで、互いを思いやれないことで生じる衝突が後を絶ちません。剣を取る者は皆、剣で滅びる」(マタイ 26:52)と言われたイエスの生き方に倣い、暴力に打ち勝つ強い信念をもち、交わりを通して互いを理解し尊重しあえる平和の実現を目指します。このニュースが皆さまと一しょに考え、わかちあいの場となることを願っています。

沖縄からの訴えと祈り

「正義と平和」担当司祭 ^{まつうら けん} 松浦 謙

沖縄慰霊の日 6月23日、午前6時、那覇市内のカトリック小^{おろく}禄教会に集った約150人の人たちによって平和祈願ミサがささげられた。

アジア太平洋戦争の末期、沖縄では住民を巻き込んだ凄惨な地上戦が繰り広げられ、24万以上の人々が命を落とした。さらに戦後も米軍支配のもとで住民の人権は蹂躪^{じゅうりん}されてきた。1972年沖縄は日本に復帰したが、日本全土における米軍基地の70パーセント以上が沖縄に集中し、今も自然と人々の平和な生活を脅かしている。

ミサの説教を行った沖縄在住の谷大二司教は、日本の軍備が増強され、南西諸島のミサイル配備が進む現在の状況に言及し「戦争が廊下の奥に立ってゐた」という渡辺白泉の銃後俳句を紹介した。これは1939年に詠まれたもので、この2年後日本は太平洋戦争に突入していった。「廊下の奥」つまり、わたしたちの家の中、生活の内部にまで戦争の脅威が入り込んできているという、寒気を覚えるような一句である。沖縄が再び戦場になるのではないかという危機感を抱く中、谷司教は、平和への希望を失わず、祈り、行動しようと呼びかけた。



ミサ後、参加者は戦争犠牲者に対する慰霊と不戦の誓いの原点となっている「魂魄の塔」^{こんぱく}までの約16キロを徒歩で巡礼した。

「魂魄の塔」の前で、那覇教区のウエイン・バートン司教が「大国の狭間からの叫び」と題する今年の平和メッセージを読み上げた。一部を紹介する。

「もう戦争はいらない。もう悲しみはいらない。…もう基地はいらない。もう砲弾やミサイルはいらない。我々を大砲の餌食^{えじき}として利用するな」。そして平和への望みを、沖縄の方言を交えて語った。

「ただ平和に生きたい。ただすべての国と友愛関係に生きたい…。ただ『いちゃりば ちよーでー』のこころで生きたい。ただ『ぬちどう宝』の精神、『ちむがなさ』のまごころを 生きたい」
(※注)

わたしたちは皆、天の父である神に愛された子らであり、兄弟姉妹である。ひとり一人のいのちが、かけがえのない「宝」として大切にされる、真に平和な世界の実現を祈りたい。

- ※ 沖縄のことは ・「いちゃりばちよーでー」⇒一度出会ったならば、みな兄弟
- ・「ぬちどう宝」⇒いのちこそは宝
- ・「ちむがなさ」⇒相手の痛みを深く感じる愛

第37回カトリック那覇教区平和巡礼

那覇教区信徒 やまが けいご 山田 圭吾

「沖縄慰霊の日は6月23日で休日とする」と県の条例で決められています。県主催の「全戦没者追悼式」が開催され、県内各地の慰霊塔の前では「沖縄戦」で犠牲になった人々を追悼する祈りが捧げられる。

だが、なぜ6月23日なのか。日本本土への侵攻を1日でも引き延ばすために沖縄住民を無駄に死に追いやった牛島満司令官が追い詰められ自決した、と言われる日を「慰霊の日」と定めたり、「沖縄の終戦記念日」とすることには違和感があるし、沖縄で降伏文書に調印された9月7日を終戦記念日とすべきだ、との声もある。しかしまた、その後続く沖縄の現状を見るとき、沖縄の戦争はまだ終わっていないとして何となくしっくりこないけれども「慰霊の日」として沖縄戦を思い起こし祈る日を定めたことを受け入れざるを得ないのしかたないのだろう。

遺族の方々や他の多くの団体は「平和行進」をしておられるが、カトリック沖縄正義と平和委員会(当時)としては、ある司祭の発案で、隊列を組んで行進するやり方とは趣を変え「十字架の道行き」に擬えて「平和巡礼」とした。

聖フランシスコ像のある小祿教会(那覇市)で朝6時に平和ミサを捧げ、共に祈りながら歩き、休憩を兼ねて集合する場所(3カ所)で祈り、聖歌を歌い、当時の証言を聞き、途中参加の人たちと合流してさらに歩き出す。最終目的地は戦後収集された遺骨が納められた魂魄の塔(糸満市)。総距離は約16km。現地参加の人たちも交えて祈りの集いをし、正午の時報に合わせて黙祷し、解散する。

今年も全行程を完歩の沖縄戦を体験した90歳近い方、幼児や学生、毎回関西から来られるプロテスタント関係の方々、仏教系の方々、これまで実に様々な背景の方々に参加してきた。また、他の団体は政治的な意味合いのこともあるので純粋に祈りの活動である「平和巡礼」に参加したいと言うキリスト者でない方もおられた。多いときは300人ほどが参加したが、やはり戦争体験者の参加が少なくなり、若い人々も関心が薄くなってきたのか継続が危惧されている。

それでも、今年は大分、鹿児島、那覇の三教区合同黙想会に参加した司教や司祭団、大阪や長崎、福岡から参加の司祭たちもおられ、また、カトリック正義と平和協議会のメンバーも共に祈り歩き、無事に終えることができた。神に感謝。



戦争とトラウマについて

シナピス運営委員 しまだ いたる 嶋田 至

ずいぶん前に沖縄で宿泊型のワークショップに参加したとき、同じグループに地元から参加された女性がいました。とても陽気な人でしたが、他のメンバーを質問攻めにすることがあったので、私が止めに入ったのです。ところが、それがきっかけで彼女は幼児虐待の記憶が蘇ったようで、まる一日間、部屋に引きこもってしまいました。

阪神・淡路大震災以来、災害や犯罪が生じるとトラウマや PTSD が話題になり、心のケアが注目されるようになりました。トラウマという言葉は、ギリシア語で「傷」を意味します。心的外傷と訳されますが、まさに心に傷を負うことだと言えるでしょう。私たちの心は自動的に自身を守るようにできていて、トラウマにつながる体験は意識の外に隠そうとします。しかし、トラウマの記憶が完全に無くなるわけではありません。心の傷は知らないうちに、感情を麻痺させたり、えんき 怨嗟や不安の感情を引き起こしたりすることがあります。また、新たな体験がきっかけとなって、長らく忘れていた記憶が引き出され、フラッシュバックすることがあります。この状態を PTSD（心的外傷後ストレス障害）と言います。

第 2 次世界大戦では、数多くの人たちが人を殺めたり、あや 自らも傷ついたり、家族や仲間を亡くしたりして心に傷を負いました。各国で戦争経験者が PTSD を発症するケースが報告されています。PTSD はいつ発症するかわかりません。たとえば沖縄戦を体験した人で、戦後 50 年たってから PTSD を発症した人もおられます。

また、トラウマは次世代に伝わることも明らかになってきました。世代間トラウマと呼ばれるものです。たとえば、戦争体験者が不安症、うつなどの PTSD による心理的問題を抱えていることが、子どもの育成を通して、子どもの心身に何らかの影響をもたらすことがあります。また、戦争で多くの親族を失った人は過保護になって、子どもの発達を阻害することもあるそうです。

冒頭で紹介した女性は沖縄で生まれ育ちました。これはまったくの推測ですが、ご両親は沖縄戦を体験された人かもしれません。だとすると、彼女も戦争による心の傷を継承しているのかもしれませんが。戦争が終わって長い年月がたちましたが、戦争がもたらしたトラウマの研究はまだまだ発展途上です。

私たちは戦争で人々がどんな体験をしたのかを、もう少し丁寧に知ることが大切だと思います。そして、その体験が当事者たちに、あるいは世代を超えて私たちに、どんな影響を与えているかを考えてみる必要があるのでしょうか。戦争によるトラウマを考えることは、戦争が私たちに長期間にわたってどれほど苦しめるものかを、再確認することにつながるのだらうと思います。

- * 『戦争と文化的トラウマ 日本における第二次世界大戦の長期的影響』（竹島正、他、日本評論社）を参考にしました。
- * トラウマや世代間トラウマの影響が大きいと感じられたら、トラウマケアの専門家に相談されることをお勧めします。

地域で生きるということ

みやなが ひさと
宮永 久人

2020年2月に頸椎が損壊して倒れ、救急搬送されて半年間にわたる入院でのリハビリによる治療の後、8月末から在宅生活を続けている。頸髄損傷により、手足が動かなくなり、排便にも障害をきたし、訪問看護による浣腸・摘便、導尿カテーテル管理は欠かせない。この間、尿路感染のため一時的な入院を三回繰り返している。

一番不自由を感じるのは行動範囲が狭くなってしまったことである。定期的に通院し、枚方教会のミサには通い、枚方市駅周辺あるいは自宅周辺で買い物をする以外、枚方市から一歩も出ていない。しかしネットを通して教会の仲間たちと顔を合わせて語らい、フェイスブックでメッセージを発し、メールでやり取りし、アマゾンで買い物をする事ができている。

頸椎症から頸髄損傷に至るのはアテトーゼ（不随意運動）型脳性麻痺の宿命である。多くの脳性麻痺の人々がたどってきた経緯を自分もたどっている—そう受け止めている。障害者たちの先人が障害者自立生活運動によって道を切り開いてきたからこそ、今日自分が介護を受けながら生活できていると理解している。

私が介護を受けている法的根拠である重度障害者訪問介護は、障害者総合支援法に基づくものであり、介護保険法の訪問介護とは制度的に別物である。障害者総合支援法は障害者たちの自立生活運動を背景に作られた法律である。

1970年代後半から、障害者たちが施設を出て地域で在宅生活を始めた。私も病院で、半年あまり施設入所と同様の生活を送っていたのでわかったが、なにしろ自由がない。（コロナ禍のもとではなおのこと。医師や看護師たちがマスク着用を義務づけられたため、読唇が困難になり、コミュニケーションが困難を極めた。）

その後、国・地方自治体もコストダウンのため、在宅福祉へと転換していく。旧障害者自立支援法には多くの障者たちが反対したが、後年それを改正する形で障害者総合支援法が成立。さらに交通バリアフリー法や障害者差別解消法が成立するに及んで、障者が地域で在宅生活を送る流れが定着している。

このような流れで今、多くの事業所に助けられている。病院はもとより、訪問介護、訪問看護・リハビリ、デイサービス、訪問入浴、補装具販売会社、等。それぞれの事業所ごとの法的枠組みの中で自己決定権を主張しつつ、懇切な説明を得、あるときにはバトルを繰り返して、事業所としてできること、できないことを峻別し、理解するまでには時間がかかった。ましてやコロナ禍のもとで、特に訪問介護事業所はウィルス感染に敏感になっている。今後コロナ禍の沈静化とともに、事業所も落ち着きを取り戻すよう願っている。事業所やヘルパーたちとの相互理解・信頼関係は、バトルを重ねながらも地道にコツコツ、である。

事業所にとっての一番の問題は重度訪問介護の単価の安さである。介護という命にかかわ

る仕事をしている以上、報酬単価は高くてもよいはずであるが、介護保険よりも安く設定されている。

私の目下の課題はいわゆる 65 歳問題である。障害者総合支援法により地域で生活している障害者たちが 65 歳に達すると、介護保険への移行を迫られ、在宅生活にかかる時間・サービスを減らされる可能性があるという問題である。

現代の医学レベルでは、iPS 細胞等の再生医療は日進月歩であるが、臨床試験を重ね、技術が確立され、実用化されて保険適用に至るまでにはまだまだ時間かかりそうだ。生まれてくるのがもう 30 年遅かったら……などという、どうにもならないことを考えてしまう。いつ、どのような時代・場所に生まれ、どのように歩むのか—それは自分の意思を超える、神の御手に委ねられていることだろう。そのときどきにひとつひとつ決断して歩むしかない。

- ※ 以上に記したことが障害当事者や支援している方々に参考になれば幸いです。
- ※ なお、今までに書いてきたものをまとめて、一冊の本にしました。ご紹介させていただきます。

癒しと救い—「障害の神学」から「癒しの神学」へ 教友社 刊 著：宮永久人

購入・問い合わせ:

有限会社 教友社
〒275-0017
千葉県 習志野市 藤崎6-15-14
電話 047-403-4818
FAX 047-403-4819
e-mail info@kyoyusha.com

(四六判・136頁・本体1500円)



障がいのあるなしにかかわらず賜物を分かちあえたら・・・できるところから。

障がい者委員会 ^{いしい のぞみ} 石井 望

教会でミサや集まりの時、障がいを持つ人も持たない人も情報を共有し、祈りや交わりの時を共有できたら・・・。広報などで当事者に最適な方法で情報が提供され十分にコミュニケーションできたら・・・。

大阪教区で年に8回の公式行事のミサでは、情報保障の必要な人が行事に参加するからではなく、主催者として情報保障(点字版パンフレット作製、手話通訳、文字通訳・要約筆記など)を前提に企画し、案内にもその旨を明記して参加促進を心がけています。とはいえ、あらゆる障がい者にちゃんと提供できているわけではありませんし、小教区などでは情報保障の必要さえ理解されていないことが多いのは皆さんお気づきと思います。たとえば・・・

- ・ 毎月小教区に「シナピスの風」点字版が送られているのはご存知でしょうか?度々「幸い当小教区には必要な視覚障がい者はいません」とか「送付不要」と返事がくるそうです。教区で把握している点字の必要な方には全信徒宛の文書は郵送されていますが、もしそれ以外の方が小教区を訪れたときに、わずかな情報でも提供できるものはあるでしょうか?せめて「シナピスの風」点字版は置いておいてください。また視覚障がいの方が来られるときは音声で情報を伝えてください。
- ・ どの小教区にも聴覚障がい者はいらっしゃるでしょう。高齢の難聴者も、高性能の補聴器を使えばあるていど聴力を補うことができるようです。スマホの音声認識も精度があがり、コミュニケーション手段として援用しやすくなりました。とはいえ、ミサのときに祈りの時間を共有し、情報が適切に提供され、コミュニケーションは十分に出来ているでしょうか?難聴者や補聴器使用者が聞き取りやすいように周りの人は心がけているでしょうか?筆談でもコミュニケーションできる準備があるでしょうか?
- ・ 障がい、病気、体調などによってミサや集まりに行きたくても行けない人が、祈りや交わりを共有できたら・・・。新型コロナ・ウィルスのために、訪問さえできない状態は続いています。一方で自宅や病床からでもスマホ、タブレット、パソコンなどでコミュニケーションするノウハウも普及しました。コロナがもたらした「贈り物」かもしれません。自分でIT機器を使わない人でも、スマホを持っている人が同伴することで一緒にミサや集まりに参加することができます。今後もさらに活用することで分かち合いは豊かになることでしょう。

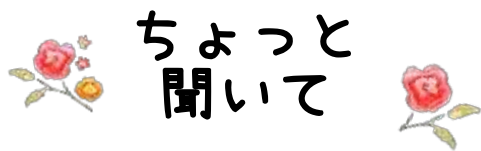
小教区でも障がいを持つ人も持たない人も「賜物」を分かち合うために、あなたもできることから始めてみませんか?声を上げませんか?技術や道具不要の伝統的テレ・コミュニケーションの「祈り」はお忘れなく。



参考: コリント人への第一の手紙 12章4節~13章13節

障害者アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法

<https://www8.cao.go.jp/shougai/suishin/jouhousyutoku.html>



教会共同体のみなさまのさまざまな取り組みをご紹介します。

「ちょっと聞いて」「聞かせて」そんなふれあいの場になったらいいと思います。

カトリック仁川教会 社会活動委員会

仁川教会の社会活動委員会は、「イエスならどうするか」という識別を活動の基準にしたいと目標に掲げています。教会外部（プロテスタント教会、市民団体）との交わりも大切に、地域の中で信頼され、利用していただけるような教会になりたいと願っています。

そのため、教皇メッセージ、シナピスからの情報、「正義と平和」からの情報など、すべてを小教区の皆さんに伝えて、協力をお願いしています。

また、「シナピスニュース」は第一日曜日に開催される評議会で各委員会に配布し、「毎月の祈り」は社会活動委員会での「はじめの祈り」として使わせていただいています。

仁川教会には、「社会活動委員会」の前身である「福祉部」と呼ばれていた時代から、困っている人たちに寄り添い、奉仕してきた伝統があると聞いています。それは、母体である修道会の創始者・アシジの聖フランシスコの精神や、迫害を耐え抜いた長崎の信仰が脈々と受け継がれてきたことによるものかもしれません。

1995年に阪神・淡路大震災が発生した時、反対意見があった中、当時の主任神父様は地域の被災者を聖堂に招き入れられました。また、知的・身体的・精神的ハンディキャップを持つ人たちのグループホーム「すばる舎」との関わりの中で、教会が彼らを支援しているつもりでいましたが、大震災発生直後、真っ先に地域で炊き出しを始めて独居老人にお弁当を届け始めたのは、「すばる舎」の方たちでした。社会的弱者とと思っていた人たちの時宜^{じま}に^{かな}適った自主的な行動に感動し、支援対象者と決めつけていたことを反省し、学ぶことが大きかったです。

釜ヶ崎の「出会いの家」や「ふるさとの家」との長年の関わりでは、谷間に置かれた人々の「自己責任」では片づけられない日本社会の問題点が身近なものとなりました。

各種の募金活動も実施していますが、特筆すべき募金の一つに、2018年から毎月一度 聖堂内に置かせていただく「忘れないフクシマ募金」があります。今も続くフクシマの悲劇を「忘れない」精神で、「福島の子どもの達の保養」を実施している団体に、年度末にお送りしています。

「教会の中で社会活動に対して理解を得にくい」ということをよく耳にします。実際、「政治にかかわる署名」には抵抗感を感じる方もおられます。「教会では、静かに祈りだけしたい」と言われる方もおられます。そこで、今年の「信徒集会」では、「フランシスコ教皇様も政治に関わりましょう」と言っておられます。良い政治は平和を作るのです。人権意識の高い政治家を選び、平和を目指しましょう」と思い切って訴えました。

「社会活動」に対して理解を深めていただけるよう、広報委員会にもご協力をいただき、毎月の月報に「社会活動委員会から」というコラム（半頁）をいただいて「お知らせ」を書いています。また、「イエスに倣った生き方（社会活動）で福音を伝えた人」というシリーズ（1頁）を年に数回書かせていただき、「イエスの生き方こそが社会活動ですよ」と伝える努力をしています。

「平和旬間」行事の企画も社会活動委員会が担当していますので、実施に向けて様々な苦労はありますが、「平和旬間」の意義を伝える良い機会を与えられたと、ありがたく思います。

メンバーの高齢化で将来を心配しながらも、教皇がお手本とされる聖フランシスコの精神を大切に、「良きサマリア人」の譬えの「通りの向こうを歩く人」にならないように努めたいと思っています。

平和旬間2023 大阪教区共通テーマ

希望をもってともに歩む Let's hope and walk together

～あきらめずに目を覚まして Stay awake, never give up～



◆姫路西ブロック (網干・たつの・飾磨・相生・赤穂)

☎0791-22-0087 8/12(土)10時～12時半

・講話：レネ神父 (淳心会)・分かち合い・ミサ

場所：カトリック相生教会

◆姫路 ☎079-222-0043 8/6・13(日)11時～

テーマ「戦争を忘れないでー子どもも大人も皆で映画を見て、平和の大切さを知ろう！ー」

・8/6『火垂るの墓』上映・8/13『島守の塔』上映

◆仁豊野 ☎079-264-0040 8/6(日)9時～11時

テーマ「ともに考えよう 平和への道を」

・平和祈願ミサで戦争時の体験談を奉納、ミサ後戦争時の体験談を聴き、次世代に伝えたいことは何かを考える
・平和のバトンを渡す人、受け継ぐ人、ともに考える

場所：聖マリア病院聖堂

◆佐用 ☎0790-82-4082 8/15(火) ミサ後

テーマ「核兵器を持つことは平和につながるのか」『ETV特集・市民と核兵器～ウクライナ危機の中の対話～』を見て、平和について分かち合う

◆豊岡 ☎0796-22-2018 8/6(日)12時半～14時

テーマ「平和を兄弟姉妹とともに考え見つめ合う集い」

・DVD『ヒロシマ・ナガサキ核戦争のもたらすもの』鑑賞・その後、平和についての分かち合い

◆姫路東ブロック (加古川・西脇)

☎079-422-2870 8/6(日)9時半～

テーマ「お互いに尊重し合い、分かち合い、みなで平和の実現に向けて一緒に努力しよう！」
"Let us respect each other, share, and work together to achieve peace."
平和祈願ミサ司式：カレンガ神父 ・「平和への祈りカード」を作成し奉納、掲示・平和のうちわを持ち寄り釜ヶ崎へ贈る・シナピス難民移住者支援グッズ販売

場所：カトリック加古川教会

◆垂水 ☎078-707-4434 8/6(日)11時10分～

12時40分

テーマ「難民は平和を知っている～難民との共生を目指す大阪教区のとりのくみ～」講演者：ビスカルド篤子さん (カトリック大阪大司教区社会活動センター・シナピス)

◆神戸中央 ☎078-221-4682 8/5(土)9時半～

・9時半～10時ブレイズ神父のお話「コンゴ民主共和国のこどもたちのお話」・10時～11時平和祈願ミサ

◆六甲 ☎078-851-2846 8/6(日)16時～17時半

テーマ「宗教・宗派を超えて平和について考えてみませんか」・ミニ講演 千東史和さん (西宮クロスロード教会牧師)、谷川美加さん (浄土真宗本願寺派万徳寺坊守)、英隆一朗神父 (六甲カトリック教会主任司祭)

場所：カトリック六甲教会

◆夙川 ☎0798-22-1649 8/6(日)10時～

・10時～平和祈願ミサ・11時半～13時 信徒が語る戦争体験を聞き、分かち合い

(8/6～8/15 平和旬間日記 2023 とピースツリー作り、ピースツリーは聖堂内に展示)

◆仁川 ☎0798-51-0176 8/6(日)9時～、13日

(日)9時～11時

・8/6 広島原爆忌にあたり、こどもたちの「平和への誓い」に耳を傾ける。「日本国憲法のこころ」(井上ひさし訳)を味わう。・8/13 平和祈願ミサ、坂本誠治さん(聖イエス会アンネのバラの教会牧師)のお話

◆宝塚 ☎0797-72-4628 8/11(金)9時半～

テーマ「すべては祈りから～マザー・テレサに学ぶ平和への道」・9時半～ミサ・10時半～平和祈願講演会
講演者：片柳弘史神父 (イエズス会)

◆伊丹 ☎072-772-2487 8/13(日)ミサ後

テーマ「未定」講演者：荘保共子さん(「こどもの里」理事長)

◆**尼崎** ☎06-6481-4235 8/6(日)9時半～10時半
・平和祈願ミサ司式：デリア・ジョヴァンニ神父・ミサ前にロザリオ一連と「平和を求め祈り」を唱える・平和に関する共同祈願を唱える・日曜学校のこどもたちの合唱「あなたの平和の道具にしてください」

◆**日生中央** ☎072-766-1519 8/13(日)10時～
テーマ「平和について共に語り合い祈ろう」・平和祈願ミサ・絵本の読み聞かせ、歌・畠基幸神父による平和に関するお話・平和祈願メッセージの製作

◆**池田** ☎072-751-2400 8/6(日)9時～12時
テーマ「中村哲医師のアフガニスタンでの用水路事業を記録したビデオ『用水路が運ぶ恵みと平和』を鑑賞し、平和の大切さを学ぶ」・平和祈願ミサ後ビデオ鑑賞と分かち合い

◆**箕面** ☎072-721-2734 8/13(日)9時のミサ後
テーマ「廃品回収を行う人たちとともに歩む」・動画鑑賞と発表「暁光会大阪支部を始めたバラード神父、蟻の町のマリア北原怜子さん、ゼノ修道士の活動から、神の働きを知る」発表者：深尾泰さん（箕面教会社会活動委員長）

◆**千里ニュータウン** ☎06-6832-1111 8/6(日)ミサ後、8/13(日)10時～
テーマ「平和について考えを深める」・各家庭で平和についての分かち合いを行う・8/6 平和についての分かち合い・8/13「平和を祈る」平和祈願ミサ

◆**吹田** ☎06-6388-1083 8/6・13(日)
平和祈願ミサ後
テーマ「平和を祈るロザリオ」「平和の祈り(テゼの祈り)」
講演者：小林正一さん

◆**大阪梅田** ☎06-6371-4060 8/6・13(日)9時と11時、8/15(火)10時～13時
・8/6『Hola!出来島!!』(監督：岸本景子)上映・8/13『ぼくがラーメンたべてるとき』(著：長谷川義史)絵本読み聞かせ・8/15 国際合同ミサと交流会

◆**関目** ☎06-6931-4807 8/13(日)9時半のミサ後
テーマ「～不安を吐き出し平和を積み上げよう～キーワードは『愛の反対は無関心』(マザー・テレサ)」・8/13「音楽と祈りと親睦の平和のつどい」(8/6-8/15 毎日の祈り)

◆**門真** ☎06-6908-5841 8/13(日)9時半～12時
テーマ「福者ユスト・高山右近の正義と平和の道」高山右近の信仰と生涯を学び、平和への想いを新たにする・9時半～平和祈願ミサ司式：ユン・サンホ神父・ミサ後DVD鑑賞と講演会 講師：三島克己さん(元右近と歩む会副会長)

◆**大東** ☎072-876-5434 8/13(日)9時半～
テーマ「平和を作る」・9時半～平和祈願ミサ・10時半～DVD『しではら』を鑑賞後、9条の提案者幣原喜重郎首相から学ぶ私達にとっての「平和を作る」とは?を考える

◆**枚方** ☎072-841-5333 8/13(日)12時15分～13時半
・11時～平和祈願ミサ・12時15分～DVD『このころの時代“私のガリラヤを生きる”(さいたま教区終身助祭長澤正隆さん)』鑑賞

◆**香里** ☎072-834-3800 8/6(日)9時半～14時
テーマ「『カトリック教会と環境』—私に何ができるか—カトリック信者として…」・9時半～平和祈願ミサ司式：マッカーティン神父・11時～12時半講話第1部・13時～14時講話第2部

◆**大阪田辺** ☎06-6692-2330 8/6(日)10時～12時
テーマ「希望をもってともに歩む～田辺に落とされた『模擬原爆』」講演者：吉村直樹さん(7.26田辺の模擬原爆追悼式実行委員会)

◆**泉北** ☎072-292-3820 8/6(日)11時～
テーマ「戦争体験記から平和の大切さを考える」

◆**玉造** ☎06-6941-2332 8/6(日)ミサ後
テーマ「人間のしわざ」・DVDまたは動画鑑賞、分かち合い・各地区のテーマで書いた思いのカードをエントランスに掲示・折鶴アートを奉納

◆**なみはや** ☎06-6551-6253 8/13(日)13時～15時
テーマ「戦争が生み出す病～“心が壊れること”とは」
・映像と講演「戦争が及ぼす影響」、詩の朗読と講演「戦場からの帰還～依存症との関り」、歌と講演「平和を次の世代へ」講演者：梶実裕さん(なみはや教会信徒)・平和を求め祈り

◆住久江 ☎06-6681-1895 8/6(日) ミサ後
テーマ「自由を求める旅路」ベトナム戦争時ポートピア
プルとして日本に避難してこられた武永英貴さんの体験
談を聴き、戦争の悲惨さ、平和の尊さを考える・10 時
15 分～11 時 45 分 講話：武永英貴さん・11 時 45
分～11 時 55 分 感想文または決意文作成(8/15 ミサ
で奉納)・11 時 55 分～12 時 祈り

◆生野 ☎06-6757-1792 8/13(日) 9 時半～
テーマ「沖縄で今、こんなことが起きている。南西諸島
を戦地にしたくない」
・平和祈願ミサ(9 時半～日本語、11 時～韓国語)・ミ
サ終了後、平和のメッセージカード奉納、フランススコ
平和の祈り・10 時 45 分～と 12 時 15 分～DVD「沖
縄、再び戦場(いくさば)へ」鑑賞

◆岬 ☎072-482-3668(泉南教会) 8/5(土)
17 時～18 時 40 分
テーマ「アフリカ、モザンビーク/今、そして未来へーモ
ザンビーク内戦の体験談など」・17 時～講話 講話者：
イポリト・ヴィダ神父・18 時～平和祈願ミサ

◆泉南 ☎072-482-3668 8/13(日)
8 時 30 分～10 時
テーマ「希望を持って共に歩む」講話者：イポリト・ヴ
ィダ神父

◆紀の川 ☎0736-60-8712 8/6(日)
10 時半～12 時
テーマ「アフリカ、モザンビーク/今、そして未来へ」・
10 時半～11 時 20 分平和祈願ミサ・11 時半～12 時
講話 講話者：イポリト・ヴィダ神父

◆岸和田 ☎072-437-3308 8/13(日)
9 時半～12 時
テーマ「“満州帝国”を通して平和を考える」・9 時半～
10 時半平和祈願ミサ・11 時～12 時 DVD「満州帝国
実験国家の夢と幻」鑑賞、感想を用紙に記入提出

◆和泉 ☎0725-41-5768 8/13(日)9 時半～、
8/20(日)10 時半～11 時半
テーマ「子どもと青年とともに平和を考える」・8/13 平
和祈願ミサ、DVD『しではら』鑑賞(40 分間)・8/20 平
和を願ってコーラスとウクライナの絵本の読み聞かせ、
「平和学習の感想」報告者：中高生、「ウクライナのボラ
ンティア体験」報告者：五来夏鈴さん

◆貝塚 ☎072-422-5639 8/6(日)8 時半～
テーマ「平和をもたらす子どもたち」ミサ中、平和の動
画を見て、お祈りを捧げる

◆泉佐野 ☎072-463-2971 8/13(日)9 時～
テーマ「平和と難民について考えよう」

◆熊取 ☎072-452-4680 8/6(日)10 時半～
テーマ「平和をもたらす子どもたち」ミサ中、平和の動
画を見て、お祈りを捧げる

◆和歌山紀北(屋形町・古屋・今福・海南)
☎073-425-1069 (屋形町聖堂) 8/15(日)10 時～
テーマ「『あきらめない! しんどいけど…』今伝えたい和
歌山の戦争」・10 時～平和祈願ミサ・11 時半～平和の
集い 場所：屋形町聖堂

◆紀伊田辺 ☎0739-22-0281 8/6(日)11 時～
・11 時～平和祈願ミサ・13 時頃～DVD「ヒロシマ」
上映
(6/23～8/15 聖堂にて「オキナワ」パネル展開催)

★大阪北地区修道者有志 ☎072-841-5333(カト
リック枚方教会竹延神父まで) 8/11(金)18 時～
「平和を願うテゼの祈り」東日本大震災後 149 カ月目
の意向でも祈ります※どなたでもご参加いただけます
場所：カトリック枚方教会聖堂(京阪電車枚方市駅より
約 300 メートル)





難民支援に触れて

京都暁星高等学校 教頭補佐 ^{いなば たかし} 稲葉 隆司

今年の3月、生徒会中心で、昨年に続いて2回目となるシナピスへの難民支援をさせていただきました。今年は物資の支援だけに留まらず、事務局のスタッフの方から生徒会の生徒たちに向けて、日本における難民の現状をお話いただきました。生徒たちにとっては、調べるだけでは分からなかったさまざまな厳しい現実を知ることとなり、とても印象に残ったようでした。

その影響を受け、生徒会が掲げた今年の文化祭テーマは「糸～私と世界～」とし、苦しんでいる方々へ目を向けてできることを見つけること、社会と自分を結びつけて人の真の痛みが分かること、糸のように人と人のつながりを大切にすることを強調しました。

そして、6月25日(日)に文化祭が開催され、福祉部の展示教室の一角に「シナピス工房」のブースを設けました。当日は、全校生徒116名に、外部から291名と教職員もあわせて総勢450名程度の規模となり、シナピス工房にもたくさんの方々に来ていただきました。私たちにできることは本当に微力ですが、日本における難民のことについてシナピスの活動について少しでも知ることができたことに感謝します。



文化祭当日の「シナピス工房ブース」の様子

京都暁星高等学校生徒会のみなさん、ありがとう!!

去年に引き続き、今年も京都暁星高等学校生徒会のみなさんから物資を先方が運んで下さり、ありがとうございました。

箱一杯のシナイも、お米、食品、衛生用品等、シナピス事務局の一番大きなテーマが一緒になるくらい沢山運ばれました。今年も生徒会のみなさんが呼びかけて下さり、沢山の物資が届けられました。素晴らしい行動のみなさんに感謝します。

頂いたものは早速その場にいられた難民住居や、その場シナピスを訪れた人たちに分け合っています。

シナイもエコロジックな作りかたを備え、さらに耐震性や、火しじりに耐えさせてくれるといういいところも、エコロジックな作りかたも、シナイのいいところですね。お米、食品、衛生用品等、シナイのいいところも、シナイのいいところですね。お米、食品、衛生用品等、シナイのいいところも、シナイのいいところですね。

なかに、今年大規模な寄付も届けて下さり、また今年も運んで下さったことが嬉しいと感じていました。

生徒会のみなさん、先生方、本当に有難うございました。

受け取りました!
ありがとうございます♪

シナピスニュース Vol.83(2023年4月)より



7月の祈りの集い

シナピス主催「オンライン祈りの集い」第22回を7月13日(木)に行いました。テーマは「船員とその家族のために祈る」。船員司牧に従事してこられた横浜教区の濱田^{はまだあきひさ}壮久神父が、船員司牧の始まりと活動内容や様子、なぜ教会が船員司牧をするのかについて、写真やエピソードを交えて具体的にお話ししてくださいました。

船員司牧は1800年代後半、船員たちの霊的、社会的、物質的な福祉の必要に対応するため、各地の港で各宣教団が活動したのが始まりです。現在、日本では「ステラマリス日本」という名称で、すべての船員、漁師およびその家族に奉仕することを目的として全国で実施されています。

活動は、船が港に入ってきたら訪ねていき、船上でミサを立て、船を祝福、クリスマスにはプレゼントを差し入れ、下船してきた船員たちを船員センターで出迎えることでした。これが、コロナ禍で一変し、船員たちは港についても下船できず、こちらから訪船することもできなくなったそうです。何カ月も船上で危険と隣り合わせの仕事をする船員にとって癒しであった、船上でのミサや港での人とのふれあい、陸に上がり自由に行動することが制限され長期隔離状態が続いたそうです。また、陸に船を停泊させると使用料金が高くなるため荷下ろし、荷積みを海上で行う船もあり、港に入っても陸に上がることはできず沖留めされた船内で過ごす船員もいるそうです。

エピソードのなかに、航海中に亡くなった船員のための葬儀ミサを捧げたというものがありました。名古屋発アメリカへ航海中の船内で乗組員が亡くなり、東京の港へ寄港し遺体を降ろし、船上で亡くなった乗組員と残された乗組員のために葬儀ミサが執り行われ、亡くなった乗組員の部屋を祝福されたそうです。この訪船と葬儀ミサは仲間の死で辛く傷付いた心を癒し、これからも航海を続けなければならない船員にとって大きな助けになったはずです。船員司牧は、航海中、過酷な生活を強いられる船員たちの心のケア、癒しに繋がる大切な活動であるということが良く分かりました。

なぜ教会は船員司牧をするのかについて、聖パウロの使徒としての宣教活動も紹介されました。聖パウロは三度も難船し一昼夜海上に漂ったこともあったそうです。航海日誌としての使徒言行録27-28章には神からの励ましを伝える聖パウロが描かれています。現代の私たちも自分たちの生活を支える大切な仕事をしておられる船員やその家族のために祈り、その輪を広げ活動を支えていくことが大切だと改めて感じる集いになりました。

※教皇庁総合人間開発省は、7月の第2日曜日を「船員の日」と定め、世界中の司牧者、信徒に船員たちのために祈るよう呼びかけています。

8月10日(木)に予定していたの「祈りの集い」はお休みします。
その後の予定は、ホームページに掲載させていただきます。





投稿欄

“ガリラヤの風”

ともに生き、平和な社会を

「甲東平和を考える会」

桐藤 直人

「甲東平和を考える会」（代表：吉村 平さん）は、自衛隊の海外派遣を可能にするPKO法（国際平和協法力）が1992年に成立して以来、「平和を守りたい」という思いから地域の仲間と立ち上げた会です。それ以来、「戦争をしない平和な世界」を目指し、「平和」について考える「学習講演会」を年に数回開催し、地域の市民や諸教会の方にも声をかけ、共に学んでいます。

2020年2月には、ビスカルド篤子さんに講演をお願いしました。その講演で、シナピスが難民支援など「谷間に置かれた人々に寄り添う活動」をしていることを初めて知りました。

その後、三田にある「田中農園」の一面をお借りして、数人で作物を育て、収穫したものをシナピスに届けました。少しでも、難民支援に貢献できたら嬉しいという気持ちでした。

快く畑を貸してくださった「田中農園」の田中 飛行さんのご両親は、戦後 開拓農民として入植し原野を開墾されました。その苦労は言い尽くせません。極貧生活を経験した彼について、お母さんは「人に尽くすために生まれてきたような子どもです」と『旭開拓50周年史 旭魂』に記述されています。子ども達に遺した「遺言」と思われます。そのとおり、田中さんは難民支援に快く協力してくださったのです。

また、ジャーナリストの西谷 文和さん（「イラクの子どもを救う会」代表）の「平和学習講演会」はコロナ渦にあった期間は除き、毎年実施しています。西谷さんは、戦禍の町や村を訪れ、そこで生きる人々を取材し、講演会ではマスコミが報道しない戦争の実態を教えてください、「戦争の悲惨さ・平和の大切さ」を学ばせていただいています。

戦場となったアフガニスタン取材中、西谷さんはペシャワール会の医師・故中村 哲さんに偶然出会いました。マルワリード用水路を建設し、砂漠を農地に変え、約65万人もの命を救ってこられた中村さんは、「戦争ではなく、コメや小麦で平和を勝ち取るんですよ。九条がバックボーンとして僕らの活動を支えてくれています」と語っておられます。



故中村哲さん（右）と西谷さん

「テロとの戦い」と叫び、アメリカは国連決議もないままアフガニスタンを爆撃、イラクにミサイルを撃ち込み、破壊しました。その後、アフガニスタンやイラクはどうなったでしょうか。昨年、西谷さんは13回目のアフガニスタン取材を行いました。その映像を観ると、飢餓寸前の人々、迫害される女性、ハザラ人等、アフガンの状況は今までの中で最悪に見えました。

今年の5月には、泥沼化するウクライナ戦争の現場取材しています。キーウ、ブチャ、イルピン、ハルキウなどを訪れ、破壊されたビル、団地、ガソリンスタンドなど戦場の惨状をカメラに収め、戦禍の下で生活する人々にインタビューし、市民の目線で戦争のリアルを伝えてくれました。

また、イラクの子どもや難民となった子ども達に支援物資を届ける活動もしておられます。

最近の講演会には、近隣の高校や大学の先生が生徒さんや学生さんに声をかけてくださり、若者の参加者が増えたことは、本当に嬉しいことです。ある大学生は「直近のウクライナの映像を観て胸が痛みました。私は今18歳で、選挙権を持っているのですが、日本の政治について考える良い機会になりました」と感想を寄せてくれました。

これからも、同じ目的の多くの方と連帯して、「平和な社会」を目指して働きたいと思っています。

今月のチラシ



入管難民法の改悪に抗議し、 難民・移民と共に生きる教会共同声明

声明をまとめた外国人住民基本法の制定を求める全国キリスト教連絡協議会(外キ協)からのメッセージです。
声明にはシナピスも賛同を表明し、ニュースに同封しています。

私たち、外キ協は 6 月 9 日、入管難民法の改悪案の国会成立に対して、抗議声明を出し、翌日から各教会に賛同を呼びかけたところ、126 の教会・修道会・関係団体からの賛同のメールが届きました。

寄せられたメールには、改悪法成立に対する怒りと私たちとの連帯が表明され、また、じつに多くの教会・修道会・関係団体から賛同が得られたことは私たちにとって大きな励ましとなりました。

私たちはこの教会共同声明を法務省、出入国在留管理庁、衆参の法務委員に送るとともに、この声明書の 4 ページ目に記した「難民申請者らの命を守る緊急基金」の準備を始めています。

基金については、外キ協事務局のなかで実施態勢が整い次第、改めて連絡します。

外キ協事務局

〒169-0051

東京都新宿区西早稲田2-3-18 日本キリスト教会館 52 号室 RAIK 内



大阪府立生野聴覚支援学校児童事故の 障害者差別のない公正な判決を求める要請署名

2018 年 2 月 1 日、交差点に重機が突っ込み、大阪府立生野聴覚支援学校の児童がはねられ亡くなりました。遺族が加害者と加害者の建設会社に対して約 6100 万円損害賠償を求めた民事裁判で、大阪地方裁判所は約 3700 万円の支払いを命じました。遺族は大阪高等裁判所に控訴しました。地裁判決は「逸失利益は労働者全体の平均賃金の 85 パーセントとする。障がいのある人はない人に比べて賃金を低くしてもやむを得ない」と司法が判断し、障がい者の尊厳を傷つけるものだったためです。

この署名は障がい者が障がいを気にすることなく安心して働き暮らせる社会を築くために、裁判所が自ら公正な司法判断を行うよう求めるものです。

署名用紙を
同封しています。
よろしく
お願いいたします。

現在 8 万筆が集まっていますが、目標は 11 万筆です！
どうか、多くの方にこの事実を知らせ、署名にご協力をください。
大阪カトリック障がい者(関目教会)小野隆久

みんなのけいじばん

◆名古屋教区平和旬間行事◆

「平和をつなぐ」—真の平和を呼びかける人になろう—

第15回平和祈念の集い

日時：2023年8月6日(日)13時~15時

場所：カトリック南山教会大聖堂

講話：「守ろう 平和といのちとくらし」—真の平和を呼びかける人になろう—

講師：松浦悟郎司教(カトリック名古屋教区司教、ピース9の会呼びかけ人)

主催：カトリック南山教会信徒及び名古屋友の会会員有志、ピース9の会

問合せ：080-3066-3433 (井爪光子)



◆日本カトリック正義と平和協議会

ブックレットのご案内◆

2022年12月7日、カトリック司教協議会社会司教委員会主催「司教のために社会問題研修会」における、二人の講師の「抑止」で戦争を回避することは本当に可能なのか、私たちが平和に生きるための真のリアリズムとは何かを説得力を持って論じた講演録です。

講師：中野晃一さん(上智大学国際教養学部教授)

布施祐仁さん(フリージャーナリスト)



購入・問い合わせ：日本カトリック正義と平和協議会事務局

〒135-8585 東京都江東区潮見 2-10-10

TEL: 06-5632-4444 FAX: 03-5632-7920

E-mail: jccjp@cbcj.catholic.jp

☆一冊150円の制作実費と送料のご負担をお願いします。

◆上映会のお知らせとお勧め◆

三上智恵監督スピンオフ作品「沖繩、再び戦場へ(仮題)」

監督は「刻々と変わっていく、沖縄の予断を許さない状況と危機感を全国の皆さんに今すぐ共有していただきたい」と、新作映画のために撮影した映像の一部から、45分ほどのスピンオフ作品を製作しました。(HP 抜粋)

上映会ご希望の方は▶▶▶



近日の上映会

日時：8月27日(日)14時~16時

場所：アプリ甲東、集会室 資料代500円(学生無料)

主催：甲東平和を考える会 代表：吉村 平

問合せ：0798-52-1719

社会活動センター・シナピス事務局からの大切なお知らせ

諸事情により、現在専従事務局員が不足しているため、当面、いくつかの活動を縮小または休止させていただきます。

- ☆ シナピスニュースは内容を見直し簡素化します。
- ☆ 「オンライン祈りの集い」は、再開の目途がつくまでお休みいたします。
- ☆ シナピス工房のグッズは、新たなカタログの配布をお休みしますので、在庫品等については直接事務局へお問い合わせご連絡ください。

なお、各地区で行われる社会活動委員会の定例会議は、今後も引き続き事務局スタッフまたはシナピス運営委員が出席いたします。

シナピスの活動を支えてくださるボランティアさんを引き続き募集しています。今月号のニュースにボランティア登録応募用紙を同封いたしますので、お力を貸してくださる方はどうぞよろしくお願いいたします。

<お問い合わせ先>

メールアドレス: sinapis-b@osaka.catholic.jp

電話番号 : 06-6942-1784

地上でもっとも小さいといわれている種子、それがシナピス（からし種）です。
イエスは神の愛がすべての人におよび、互いに尊重し合い、愛し合うように願って平和の種をまき、やがて鳥が巣をつくるほどの大きな木になると約束しました。

シナピス年間テーマ ～平和を目指してともに歩もう～

シナピスの風

*行事はコロナ感染症の影響で延期または中止になることがあります。ご参加の際は連絡先にお問い合わせください。

第161号 2023年8月1日発行

8月の祈り



天の父よ、
わたしたちの教会では8月になると
平和旬間を行います。
78年前に戦争の犠牲者となった
多くの人びとを心にとめて平和を祈ります。
戦争は人間の欲望の結果です。
わたしたちの欲望は身近なところで、
分裂を起こし、人々の輪を崩してしまいます。
平和旬間において、世界の平和を祈り、
そのために働く決意を改めるわたしたちは、
時々身近なところで起こしている不調和を
見過ごしてしまうのです。
「ともに生きる」素晴らしさを心にとめ、
身近な人々との輪を大事にしていきたい。
わたしたちの心を清めてください。
主イエスキリストによって。アーメン。

シナピスでは、毎月のお祈りをニュースレターと
ともにお送りしております。教会で、ご家庭で、
日々のお祈りにお使いください。
シナピスのホームページからも、ダウンロードし
いただけます。

第41回 平和旬間

8月6日(日)～8月15日(火)

— わたしたち一人ひとりが平和のつくりびと —

2023 教区平和旬間テーマ

「希望をもってともに歩む Let's hope and walk together

～あきらめずに目を覚まして Stay awake, never give up～



1981年、教皇ヨハネ・パウロ2世は、平和の使者として訪れた広島で平和アピールを発表した。
1982年、日本の教会はこのメッセージを受けて、8月6日から8月15日までを
「日本カトリック平和旬間」と定めた。

シナピス カフェ

★毎週土曜日 13時ごろ～16時ごろ

8月の開催：5日, 12日, 19日

☆予約不要



★月1回土曜日 11時ごろ～16時ごろ

8月の開催：26日

☆要予約

軽食付き



シナピスホーム：
大阪市生野区中川6丁目6-23
☎ 080-8940-8847



◆正義と平和講演録のご案内◆



昨年12月に行われた「司教のための社会問題研修会」における中野晃一さん（上智大学）と布施祐仁さん（フリージャーナリスト）の講演録です。「抑止」で戦争を回避する事は本当に可能なのか、私たちが平和に生きるための真のリアリズムとはなにかを、説得力を持って論じています。
※1冊150円製作実費と送料依頼者負担
問合せ：日本カトリック正義と平和協議会
〒135-8585 東京都江東区潮見2-10-10
TEL：03-5632-4444
FAX：06-5632-7920
Email：jccjp@cbcj.catholic.jp

第2回
シナピス主催
絵画コンテスト

作品募集!

第2回シナピス主催絵画コンテスト 作品募集中!

- ◇テーマ：平和 ◇対象：18歳以下の方
- ◇締め切り：8月31日17時
- ◇家族や友だちと、平和について考えるきっかけにしてみてください。
- ☆入賞作品はシナピスニュース表紙に掲載します!

詳しくはシナピスHPへ ▶▶



オンライン 祈りの集い

8月10日(木)は

お休みします。

※今後の予定は HP
で案内します



アラビア語 通訳できる方募集中!

難民申請者聞き取り通訳としてお手伝い頂ける方を探しています。

◆エジプトで話されるアラビア語 ◆スーダンで話されるアラビア語
が出来る方シナピスまでご連絡をお願いします。 ※通訳料は相談

支援のお願い

パスタ、体温計はおかげさまで沢山のご協力をいただきました。
日持ちのする食品、ハラル食品、食用油、米、カップ麺、
テレホンカードなどのご支援をお願いいたします。

感謝

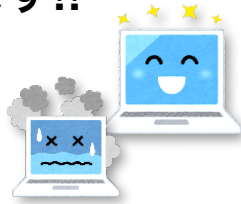


カトリック大阪大司教区 社会活動センター シナピス
Tel 06-6942-1784 Fax 06-6920-2203
URL: <https://sinapis.osaka.catholic.jp/>

「点訳版」「音訳」
ご希望の方はシナピスまで
お申込み下さい。

大好評につき常時受付決定！ パソコン修理承ります!!

不具合を起こして故障したままのパソコンはありませんか。シナピスに修理のできる技術者がいます。まずはご相談ください。



活動へのご支援ご協力を
よろしくお願いたします。

郵便振替 00960-7-61419

加入者名 カトリック大阪大司教区シナピス

難民移住者への支援物資提供

も宜しくお願いたします。

米、ハラル食品、レトルト食品、油
テレフォンカード、レトルトご飯、缶詰

お電話をお待ちしています!!

☎06-6942-1784



シナピス公式

さまざまなお知らせや情報を発信！
友達追加は QR コードから



HP はこちらから

<https://sinapis.osaka.catholic.jp/>

ニュースレター配布停止ご希望の方は
シナピスまでお知らせください。

あとがき

「怪我もしていないのに突然全身が内出血し数時間すると消える。教会でお祓いを」と、あるアフガニスタン人に相談され「お祓いの前に病院へ」と彼を心療内科へ連れて行った。医師はその人が本国でタリバンから拷問を受けた経験を聞き出し「心理的再現といって、ストレスがかかると症状が出る。戦時トラウマだ」と診断した。花火の音でパニックを引き起こす人、生き残った自分を責め続ける人を前に、かける言葉が見つからない。「戦争とトラウマ」「障がい者委員会より」仁川教会社活、京都暁星高校、「祈りの集い」「ガリラヤの風」全てが「身近なところから平和の種をまく」にふさわしい。平和旬間の8月。それぞれの場所で皆様とともに過去と現在と未来に手を合わせて祈ります。(V)

▽▲▽ シナピスの主な活動 ▽▲▽

◆広報活動

- ・教皇メッセージ、司教団メッセージ等社会活動の指針の伝達
- ・読者と教会内外の社会活動をつなぐ機関誌としてシナピスニュースを発行

◆大阪教区・社会活動委員会との連携

◆学習会研修会の企画

◆こども基金

世界・日本のこどもたちへの援助

◆カトリック中央協議会との連携

正義と平和協議会、難民移住移動者委員会、カリタス、部落差別人権委員会に委員を派遣

◆人権教育の講師を務めるなど教育機関への働きかけ

◆難民移住移動者支援

難民移住移動者の暮らしやすい社会を目指して

難民移住移動者 相談ダイヤル

☎ 06-6941-4999

アクセス

〒540-0004 大阪市中央区玉造 2-24-22
カトリック大阪大司教区事務局内



●公共交通機関ご利用の場合

JR 森ノ宮駅より 約 1000m

地下鉄中央線森ノ宮 2 番出口より 約 800m

JR 玉造駅より 約 1000m

地下鉄長堀鶴見緑地線玉造 1 番出口より約 800m

●車でお越しの場合

阪神高速 13 号東大阪線法円坂出口

法円坂交差点南へ上町を東へ

活動へのご支援ご協力をおねがいます

☐郵便振替 00960-7-61419

加入者名 カトリック大阪大司教区シナピス

☐三井住友銀行 玉造支店 普通 9401958

カトリック大阪大司教区 シナピス

代表役員 前田万葉

☐オンラインはこちら →→→

